

# 平成27年度 学校教育目標

京都市立京極小学校

## 教育目標

心身ともに健康でたくましく、個性の輝く京極の子

### 【目指す子ども像】

- ・すすんで学ぶ子
- ・優しく思いやりのある子
- ・ねばり強く最後までやりぬく子
- ・健やかでたくましい子
- ・地域を愛する子

### 【目指す教職員像】

- ・豊かな愛情と確固たる指導力をもち、一人一人を大切にする教職員
- ・使命感と向上心をもち、自己研鑽に励む教職員
- ・健康や安全に留意し、互いに協力し、高め合う教職員
- ・教育者としての責任を自覚し、児童・保護者・地域から信頼される教職員

### 【目指す学校像】

- ・楽しい学校
- ・優しい学校
- ・美しい学校

### 具体的目標

- ・子どもたちが主体的に学ぶ学習活動を展開し、基礎・基本を確実に習得し、自ら考え、判断し、表現できる力を養い、**すすんで学ぶ子**の育成を目指す。
- ・人権尊重の精神や思いやりの心を育むため、道徳教育をはじめとするあらゆる教育活動の充実を通して、**優しく思いやりのある子**の育成を目指す。
- ・何事にも積極的に取り組み、**ねばり強く最後までやりぬく子**の育成を目指す。
- ・生涯を通じて、健康を保持・増進しようとする意欲や態度、また、様々な危険から自分を守るために知識や判断力を育て、**健やかでたくましい子**の育成を目指す。
- ・地域行事に積極的に参加し、地域の方々とのふれあいを通して**地域を愛する子**の育成を目指す。

### 学校経営方針

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、一人一人のよさと可能性を最大限に伸ばす学校
- ①教育指導計画を基に、毎時間の「学習課題（めあて・目標）」を提示し、その実現のために発達の段階に応じて設定した記録・要約・説明・論述・発表・討論等の言語活動を経て、「学習課題（めあて・目標）」に応じた「まとめ」と「振り返り」を行い、児童の学力向上を目指す。
- ②あらゆる教育の場を通して、国語科で培った能力を基盤とした、記録・要約・説明・論述・発表・討論等の言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等の効果的な育成を図る。
- ③外国語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力や態度を養うとともに、日本と外国の言語や文化に対する理解を深める活動を推進する。
- ④「全国学力・学習状況調査」「ジョイントプログラム」「プレジョイントプログラム」等の客観的な資料の分析をもとに一人一人の実態把握に基づいた授業を目指すとともに、常に効果的な指導方法や指導体制の工夫改善等の取組を計画的に進める。
- ⑤学校図書館を「学習・情報センター」「読書センター」としてより活性化させ、子どもの主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図る。
- ⑥積極的にICTを活用し授業改善を図るとともに、児童に情報処理能力や情報モラルを身につける

取組を計画的に進める。

- ⑦子ども一人一人の社会的・職業的自立に向け、学校生活やあらゆる教育活動を通じて、子どものキャリア発達を支援する取組を推進する。
- ⑧児童の学習意欲を高める取組の充実を図る。(おはよう読書、学級チャレンジ、ふれあいタイム etc)
- ⑨家庭学習・家庭読書を始め、自学自習できる力を育む適切な指導と支援を工夫する。

## (2) 人、命、自然を大切にする学校

- ①すべての子どもが相手のよさを見つけようと努め、互いに協力し合い、時には互いに指摘をし合って、自己肯定感や自己有用感等の自尊感情を高め、ともに支え合い高め合う集団づくりと絆づくりを推進する。
- ②すんで挨拶することにより、人との温かいかかわりを大切にする心を育てる。
- ③様々な体験活動に取り組み、学校や社会生活上のルールやモラル(規範意識)、道徳的実践力などを身に付けさせる。
- ④あらゆる教育活動を通して人権教育を実践する。また、その要としての道徳教育及び道徳の時間の充実を図る。
- ⑤環境に対する感性を培う取組を推進し、様々な環境問題について考え、その解決に向け主体的に行動できる態度を育成する。
- ⑥家庭との連携を密にし、子ども一人一人に食事、運動、休養・睡眠の調和のとれた生活習慣を身に付ける取組を推進する。(早寝、早起き、朝ごはん)
- ⑦「生活安全」「交通安全」「災害安全」について計画的に指導することを通して、日常生活の中の様々な危険から自分を守るための知識と判断力を身につけさせる取組の充実を図る。

## (3) 家庭・地域と協働で子育てをする「地域ぐるみの学校づくり」の推進

- ①「生活科」「総合的な学習の時間」を中心に「地域で学ぶ」「地域に学ぶ」体験活動を充実させる。
- ②毎月の自由参観、ホームページや学校だよりの地域回覧など、学校からの積極的な情報発信を行う。
- ③地域住民との交流を充実させるとともに、児童の地域行事への積極的な参加を促し、地域の一員である意識を育てるとともに、地域を愛する心を育てる。
- ④確かな教育実践を進めるための学校評価システムの活用と公表および学校運営協議会の活動の充実を図る。
- ⑤学校、家庭、地域が連携して教育力を高めるために、家庭訪問、授業参観、懇談会、休日参観、休日運動会などの充実と学校運営協議会や地域行事への積極的参画に努める。

## (4) 組織としての学校

- ①命の尊さ・大切さを深く受け止め、子どもの命を守りきる教職員体制のさらなる充実と、子ども自身が命を大切にできる学校教育を実践する。
- ②個が輝く学校づくりを目指して教職員が自己研鑽に努め、「教育指導計画」に基づく指導の徹底と公開授業等の積極的な実践により、子ども一人一人の力を伸ばす指導の質的充実を図る。
- ③P (Plan)・D (Do)・C (Check)・A (Action) サイクルを日常の教育活動に位置づけて、継続的に取組の改善に努める。
- ④教職員一人一人が組織の一員として様々な情報や目標・取組・成果を共有し、共通実践することで、活気のある学校づくりを目指す。
- ⑤教職員同士が、学び合う、高め合う、相談し合える環境を整え、風通しのよい職場づくりを行う。
- ⑥教職員の健康の保持・増進は、子どもの健やかな成長はもとより、教育活動や学校運営の充実に欠かせないことを認識し、校務の効率的な遂行に努め、心身の健康維持を図る。
- ⑦児童や保護者の話を徹底して聞き、児童や保護者の心のつぶやきに耳を傾ける。